

までにしておいたのです。しかし各回とも回付されてきた状況をみますと、大体県から発送して、約二カ月で終了しています。

回収率が低かった第二の原因は、カードを記述式にしたことだと思われま。

設問が「県政に対するご意見、ご要望を」といった、いわば莫然とした広範囲な問いかけは、一般県民の人々にとって、書きづらかった点ではなかったかと考えられるのです。

一般には、県行政の分野がどのようになっていくのか、判断としてないのではないかとと思われるのです。

行政が、住民の理解と協力の上に、その福祉を進めていくものであるとすれば、県政のPRに今後十分、意を用いるべきだと考えます。

このことについては、カードの中にも、「県政とはどのようなものか私は無関心で日常を過していますのでわかりません。税金は納めています。それがどのような形で私達に帰ってきているのか知らなければならぬとは思いますが、その意味からでも、もっと県政の広報をお願いします。」といった意見がありました。卒直な意見として受けとられました。

第三に、青壮年層の県政に対する無関心さがあるのではないかとことです。

回収されたカードを年令別にみますと、二十才代から四十才代までと、五十才代以上ではほとんど同数となっております。さらに男女別でみますと、これもほとんど同数の割でできております。

このことは、いわゆる社会的に最も活動している層からの反響が比較的少なかったことを示しているものと考えられるのです。

第四にエコ・カード自体のPR不足があげられると思えます。

第一回の発送の時には、全国的にみても数少ない公聴制度として、新聞、放送で大きく紹介されたこともあってか、回収率は一〇%を示しましたが、第二回目は、PRをしない場合、どの程度の差が出るかを調べる意味あって意識的にPRをさせたのですが、その回収率は六%にとどまっています。この四%という差は、発送時期が異なっていることなどいろいろ要因はありましようが、やはりなんといってもPRの如何がその大きな原因であったことは当然認めるべきだと思います。

△地域別

エコ・カードを地或別にみますと、匿名カードが二百三十八通あったため、全カードの集計ではありませんが、まず市部と郡部の比較は次のとおりでした。

市部 四六%
郡部 五四%

わずかに郡部が市部より多く、熊本市、阿蘇、球磨、天草を除く城北、城南の比はほとんど半ばしております。

各地区単位では、さすがに熊本市が多く、全体の二二%を占め、次には天草郡(本渡市牛深市を含む)で一二%、八代郡市の一〇%、以下球磨郡(人吉市を含む)玉名郡市の順となっております。

最も回収の低かった地区は飽託郡で、次が宇土郡市、芦北郡(水俣市を含む)でした。

中間を占めるのが、鹿本、上益城、阿蘇、菊池、下益城の地区でした。この順位は各回とも多少の出入りはありますが大体において同じ傾向を示しています。

これはやはり地域の人口数に応じたものと考えたいのではないかとされます。

△部門別

エコ・カードに記載された意見、要望を部門別にみますと、次のとおりでした。

土木関係 三二二件
総務関係 一七七件
農政関係 一四六件
民労関係 一一九件
教育関係 八四件
商工関係 七五件
企画関係 六三件
衛生関係 三六件
林務関係 七件
警察関係 一九件
その他 六件
計 一、一一九件

△土木関係

土木関係の意見や要望が多いのは毎回の傾向で、特にこの中でも道路に関するものが圧倒的に多く、件数にして、二二二件で、土木関係の中でも、実に七〇%を占め、全件数に対する比率でも、二位の総務関係を引き離して、一九%を示しています。

ています。

道路に関する意見や要望が多いことは、このエコ・カードだけの傾向でなく、他の公聴部門、陳情、投書や移動県政相談にも表われており、やはり住民にとって一番身近な行政の顔をそこに見出すからにはほかならないものと考えられるからです。

行政とはどのようなものか、全然無関心な者か、突然知事名で「県政に対するどんなご意見、ご要望でも伺います」と書かれた手紙に接して、と



幹線道路は整備されてきた

まどう場合があるのは無理からぬことと思われま

す。こういった場合、はっきり公共的業務に属するものと理解出来る問題が道路問題であることは容易にうなずけるところです。

しかし、この場合でも、それがどの行政分野に属するものかの区別は大半がありません。国道、県道、市町村道、あるいは農道に至るすべての苦情、要望意見が寄せられています。

これは何も道路に関するものだけでなく、他の

全ての部門に共通していえることです。

道路事業は県政の重点施策の一つとして、予算的にも年々増加され、その成果も眼にみえて進んではおります。

幹線道路は本県産業、観光の動脈として、着々と整備され、その役割を果しつつあります。

しかし、まだ幹線以外の道路では改修が遅れているところが多いことも事実です。

このような未改修の道を、暑い日射しの中に歩けば、最近とみに増えた自動車が進みおこす砂塵をもろにかぶらなければなりません。

雨が降れば泥水の飛沫をさけるため、傘を横にして防がねばなりません。

「最近、道路の良くなったのが目につきますが、私の家のあたりはなかなかよくなりません。気がします。——中略——私の家は商店をやっています。商品が痛んで困っています。早く舗装して下さるようお願いいたします。」

下益城郡中央村の住民からの要望です。

このように、最も多かったのが舗装を望むもので、全体の約七〇%を占め、その他、道路の拡中、下水、側溝の整備、老朽橋を永久橋に架け替るよう望むもの等がありました。また農村地区から、道路に砂利を入れると、車が砂利をはねて、田畑を荒すので、舗装するか、ローラーをかけて貰いたいといった意見も幾通ありました。

なお、幹線道路が産業の基盤として整備されることは当然であるけれども、いわゆるそれに附属する枝道の整備も忘れてはならない。例えば国道三号線のうち、熊本、川尻間に今のうち枝道を整